

3. 本事業の背景とねらい

全国的な都市課題：人口＋生産年齢人口減少

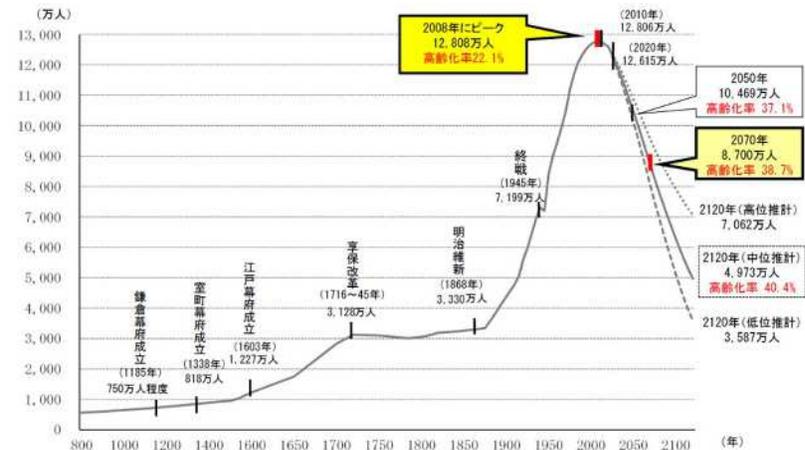
■人口動態（全国）

- 我が国の人口は2006年にピーク、
今後急激な人口減少の見込み

■人口動態（地方都市）

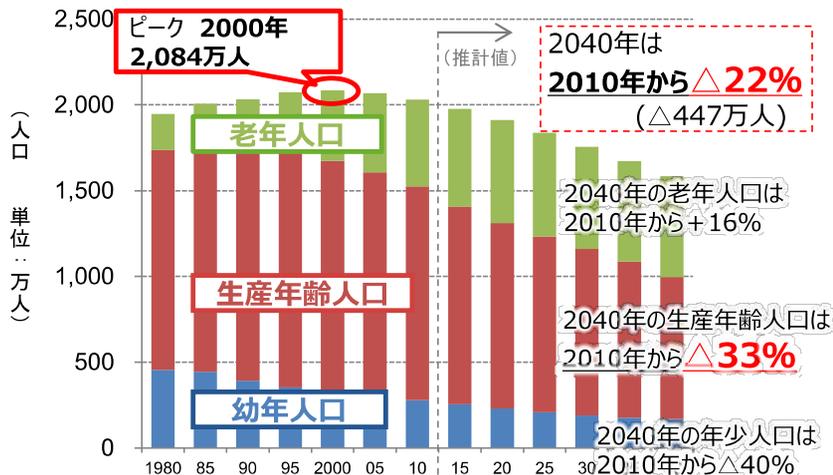
- 地方都市では、老年人口の伸び率は鈍化するが、**生産年齢人口は3～4割減少**の見込み

我が国の総人口の長期的推移



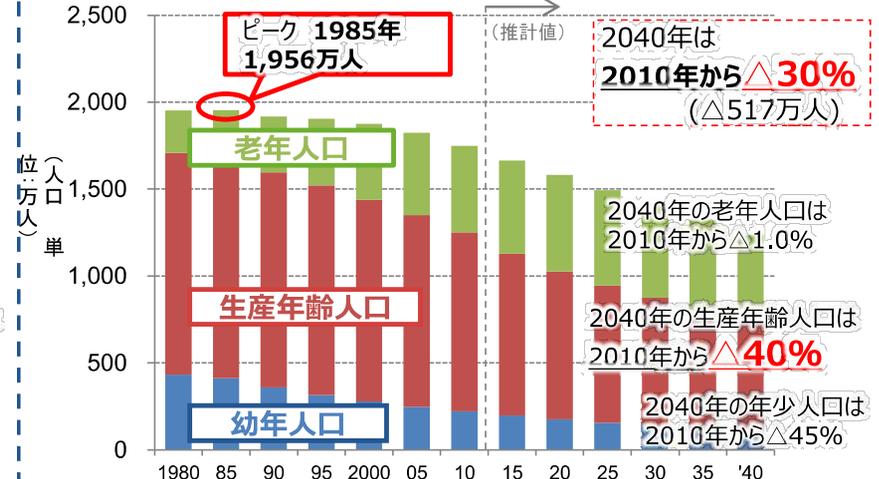
出典：国土形成計画（全国計画）関連データ集

人口推移（10万人クラス都市）



「人口10万人クラス」＝三大都市圏、県庁所在都市を除く、人口5万人～15万人の市町村。
「人口5万人クラス」＝三大都市圏、県庁所在都市を除く、人口5万人未満の市町村。

人口推移（5万人クラス都市）



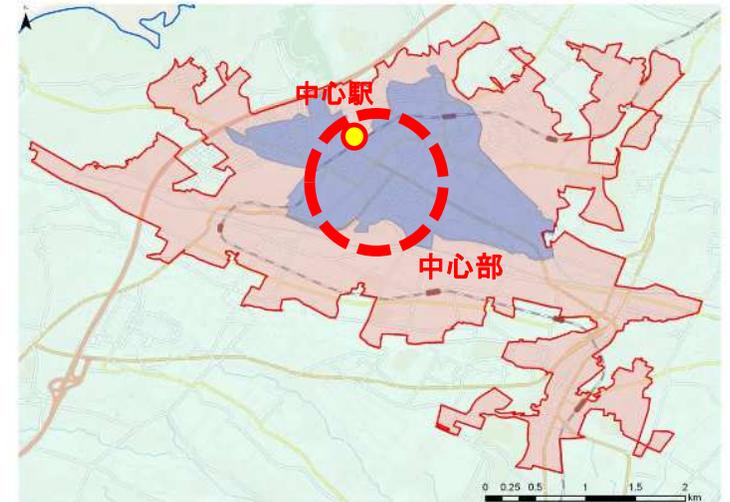
出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所（平成25年3月推計）

全国的な都市課題：低密度に拡大した都市とスポンジ化 12

■地方都市の現状と課題

- これまでの都市拡大と自家用車に頼った生活様式により住宅や店舗等の郊外立地が進み、市街地が拡散、低密度な市街地を形成
- 維持管理費の減少で、**拡散したインフラサービスの提供が将来困難**に

DID (人口集中地区) の区域図 (1960年⇒2005年)



約4.0倍
 ■ : 1960年 (1960年以降で最もDID人口密度の高い年)
 ■ : 2005年

<宮崎市中心市街地の例>



● 中心市街地約162haのうち、平面
 駐車場等の空地：約21.6ha
 → 中心市街地の**13.3%**が空地

■中心市街地の低未利用地の増加 (都市のスポンジ化)

- **低未利用地が増加**



**放置すれば、
 加速度的な都市の衰退**

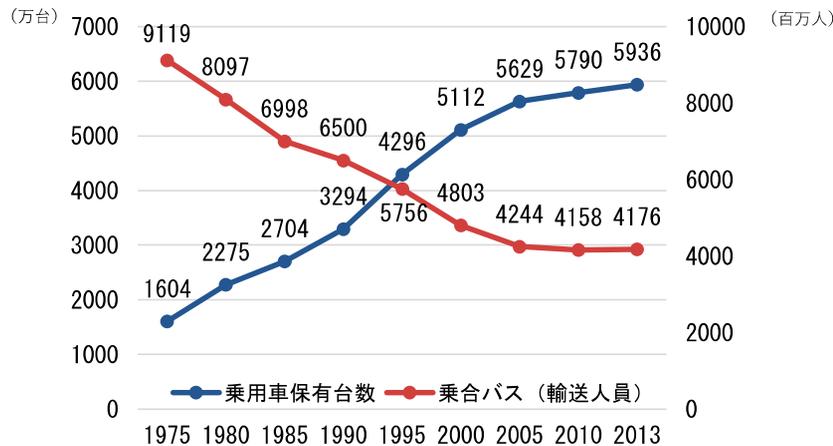


(出典) 宮崎市中心市街地活性化基本計画

■地域の公共交通の課題

- **自家用車利用の生活様式**による利用者の減少で、**輸送人員が減少**
- 交通事業者の不採算路線からの撤退による**地域公共交通ネットワークの減少**や運行回数などの**サービス水準の大幅な低下**が進行するとともに、地域交通を担う民間事業者の経営悪化が進行

モータリゼーションの進展と輸送人員の減少



※乗用車保有台数は各年3月末時点、乗合バス（輸送人員）は各年度の数値
 出典：「交通経済統計要覧」「自動車検査登録情報協会公表資料」より国土交通省作成

公共交通空白地域の存在

	空白地面積	空白地人口
バス 500m圏外 鉄道 1km圏外	36,477 km ² (我が国の可住地面積の約30%)	7,351千人 (我が国の人口の5.8%)

(出典) 平成23年度国土交通省調査

一般路線バス・地域鉄道事業者の経常収支



全国的な都市課題：低密度に拡大した都市とスポンジ化 14

■地方都市の現状と課題



自家用車でしか行けない店舗



商店街のシャッター街（和歌山駅前）



商店街のシャッター街（一宮駅前）

■中心市街地の低未利用地の増加（都市のスポンジ化）



中心市街地の駐車場化（一宮駅）

スプロールとスポンジ



5

三浦展：地域のファスト風土化とサステナビリティ：https://www.japanfs.org/ja/projects/sus_college/sus_college_id033240.html
「都市のスポンジ化」がますます深刻化、駅前さえもシャッター通りに <https://www.sbbt.jp/article/cont1/35904>
饗庭伸：<http://shinaiba.cocolog-nifty.com/toshitami/2017/03/post-849a.html>

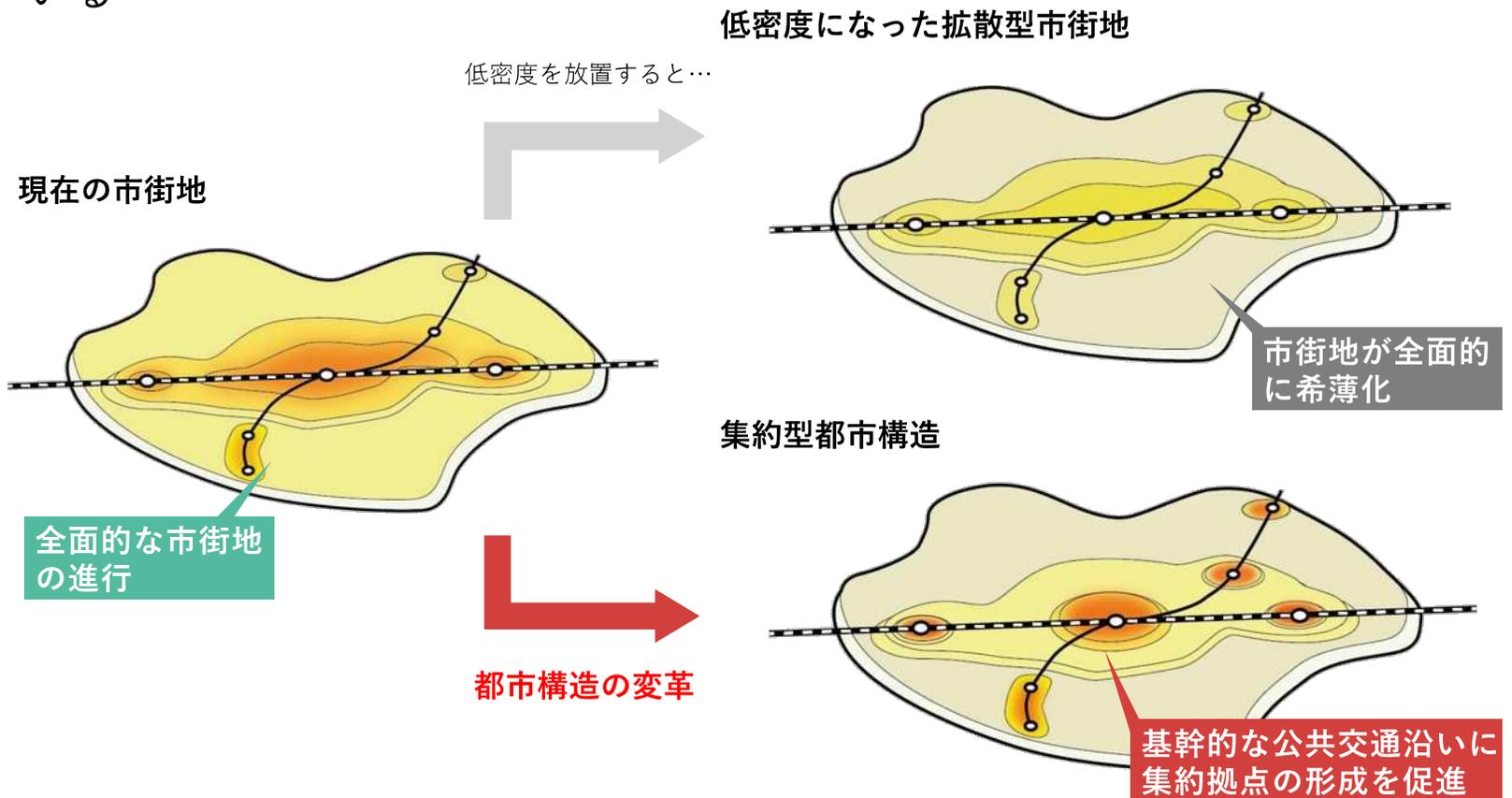
■コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり

- 居住や都市機能の集積による「**密度の経済**」の発揮を通じて、具体的な行政目的を実現するための政策手段



■コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり

- 市街地の低密度化を防ぐため、**コンパクトなまちづくり**と連携した**公共交通のネットワーク**による集約型都市構造を形成することが求められている



都市再生の事例 – Walkable city

ニューヨークタイムズスクエア



Before

After

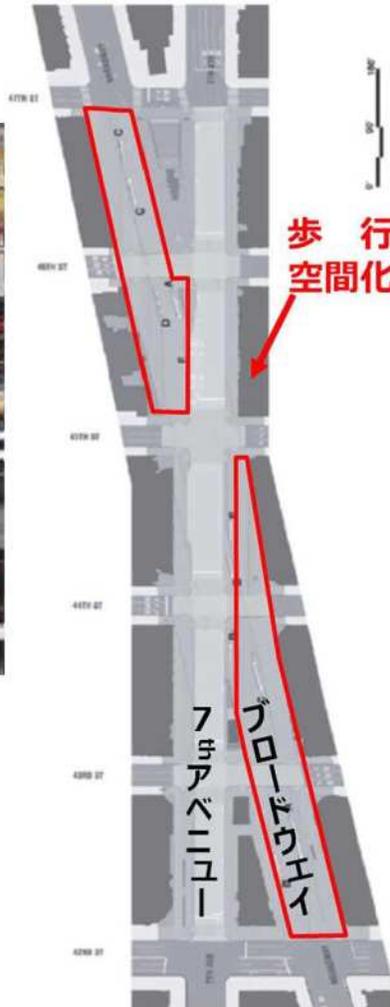


ニューヨークタイムズスクエア



Before

・半年間の社会実験を経て、ブロードウェイを恒久的に歩行者空間化



After

- ・歩行者数35%増
- ・歩行負傷者数35%減
- ・CO2 40%減



ニューヨークブライアントパーク



After

・公園収益：店舗、イベント等から年間約20億円

Before

・“全米一の麻薬密売スポット”をBIDにより再生

・カフェ、レストラン、読書、ストリートチェス、メリーゴーランド、卓球、スケートリンク等、多様な主体による多様なアクティビティを24時間オールシーズン開催



(出典) Bryant Park Corporation HP, Project for Public Spaces HP等

パリ・プラーージュ

After 自動車3.5万台/日が迂回し人のためのスペースへ



Before

- ・セーヌ河沿いの自動車専用道路を夏季限定で歩行者空間化（2002-2017）
- ・2018からは2年間通年で歩行者空間化の社会実験中



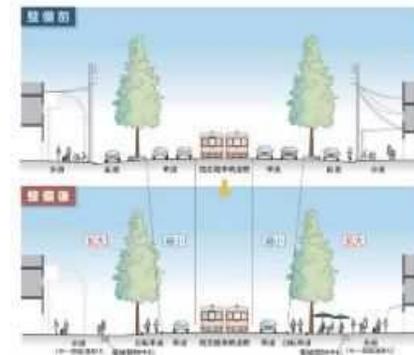
(出典) <https://mizbering.jp/archives/22430>

■街路空間再構築・利活用（居心地の良い歩きたくなる街路づくり）

- 国内外の多くの都市で、街路空間を車中心から“人間中心”の空間へと再構築し、**沿道と路上を一体的に使って、人々が集い憩い多様な活動を繰り広げられる場へとしていく取組**が進められている
- これらの取組は都市に活力を生み出し、**持続可能かつ高い国際競争力の実現**につながっている



松山 花園町通り



- **社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能（生物の生息・生育の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進めるグリーンインフラ**に関する取組を推進する（国土交通省）

米国事例

<ポートランドの取組>



高層ビルの屋上緑化
雨水管理だけでなく、屋根を保護する効果なども期待されている。



Green Street
道路沿いの緑地の縁石を一部空けて、緑地内に雨水を流し込む仕組みになっている。

<ニューヨークの取組>



屋上緑化面積に応じた固定資産税減税措置が図られている。



補助金事業により、Rain Gardenとして再整備されたQueens Collageの広場



下水道エリア内の私有地を緑化し、雨水管理に貢献することに対して助成金が支払われる

欧州事例

<公共施設の緑化>



廃線の緑化(フランス)
廃線後も線路は残し、周囲を再整備することで、レクリエーションや生態系観察の場として市民に利用されているほか、治安向上の効果もある。



並木道等(スペイン・バルセロナ)
バルセロナ市のグリーンインフラと生物多様性に関する戦略に基づき、並木道を含め、都市の自然空間毎に、自然環境の機能が評価されている

<自然環境の保全>



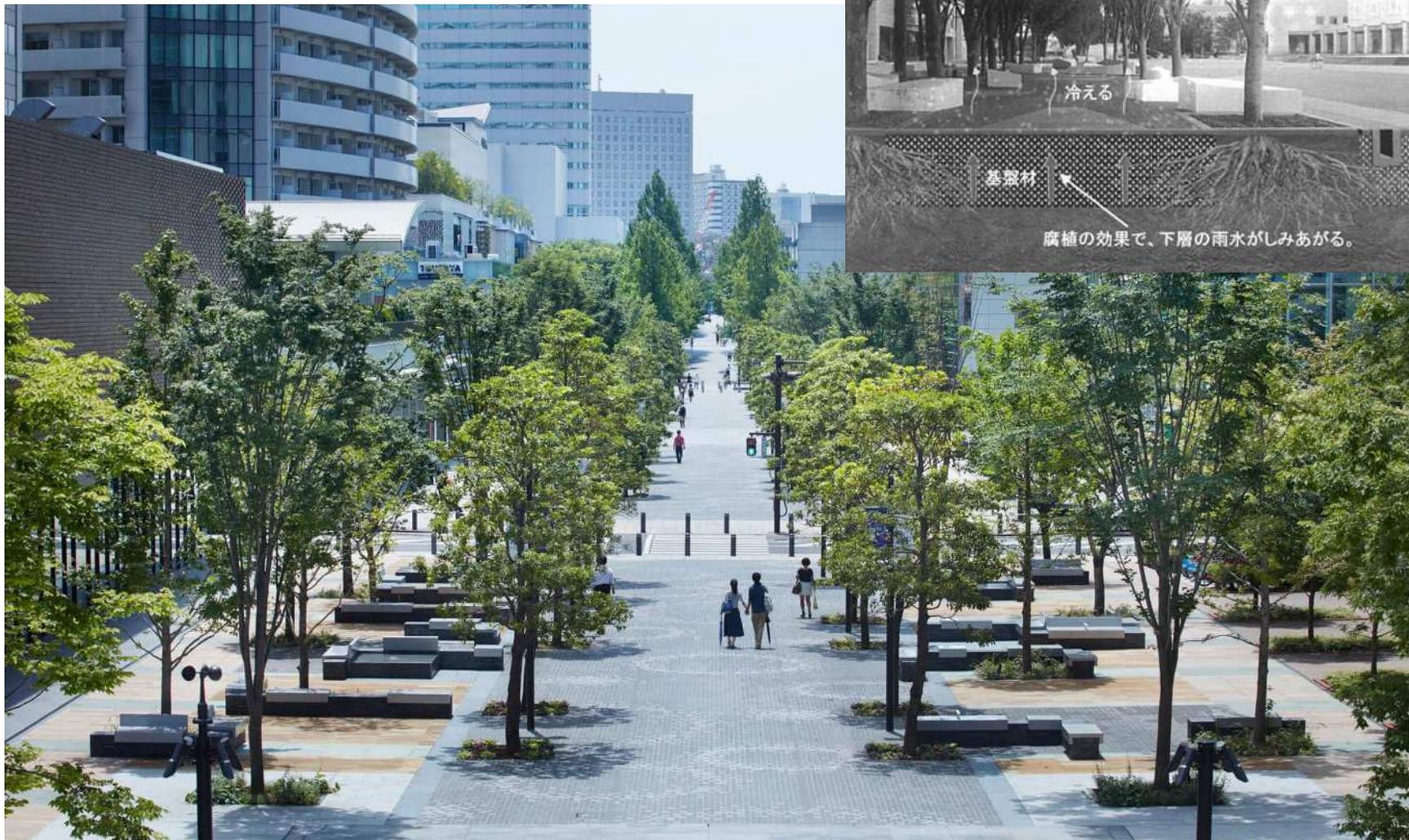
良質な生態系保全のための空き地の活用

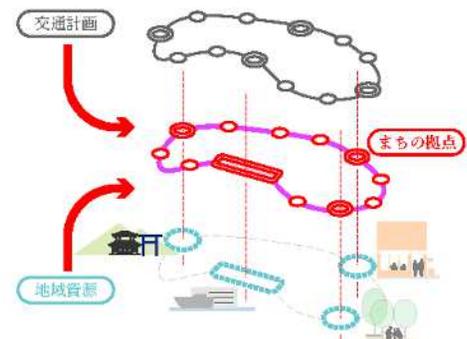


都市近郊の河川
連続した生物の生息地のために重要

出典：国土交通省総合政策局環境政策課調査 5

横浜グランモール





(参考事例) FUJIMI LOUNGE (SUGAWARADAIKU 建築事務所)

バス停前の立地、シェアサイクルステーションの併設により、徒歩・バス・シェアサイクルの乗り換え拠点を創出。加えて設計事務所の書庫や模型室をまちに開くことで、地域の創作・交流拠点となっている。複合機能を備えたまちの拠点(モビリティハブ)として、様々な人が訪れ日常的に過ごすことのできる場所になっている。



(出典) SUGAWARADAIKU 建築事務所

(参考事例) まちの拠点となる駐車場

まちの日常を豊かにする様々な機能を兼ね備えることで、まちの拠点としての役割を果たしている駐車場の事例も見られる。イベントの際には、貴重なオープンスペースとして利用される。



(出典) 松本十祐 created by 首途人 (@matsumototoku) - Instagram

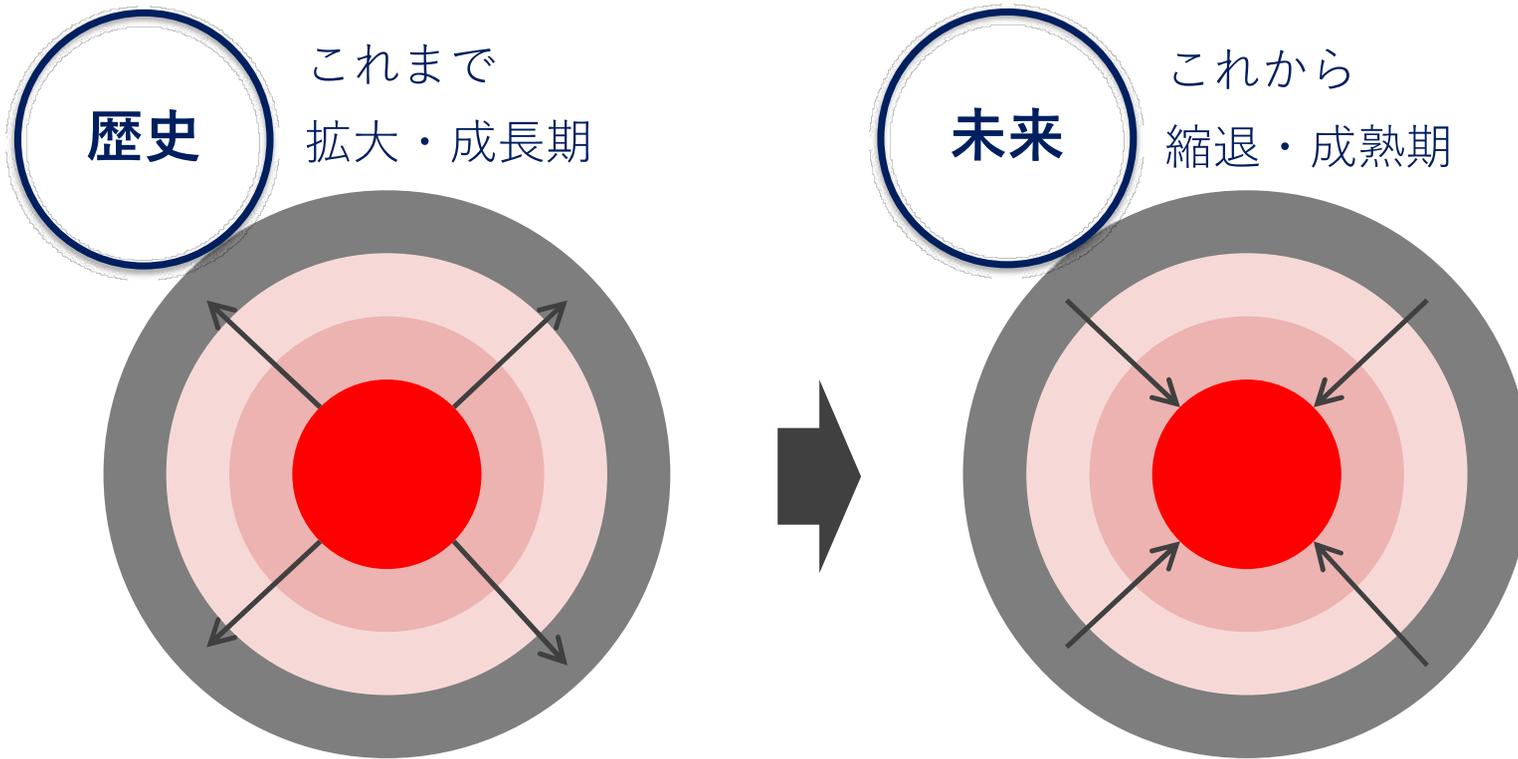
世界／先進地の都市デザイン

- コンパクトシティ
 - ウォーカブルシティ
 - グリーンインフラ
 - 官民連携
 - 自動運転／グリーンスローモビリティ
 - 創造的復興
 - SDGs未来都市
 - 企業都市
 - IoT
 - AI
 - ...
- 国内外で新しい都市に向けた
技術やデザインの実践事例の充実



- 地方都市の都市課題は概ね全国共通。どう脱却するかが問われている
- 都市再生の潮流：
 - **人の活動・自然／災害との共生・地域文化の価値**が見直されている
 - **地域資源（モノ・ヒト・コト）**をいかした**地域ごとの解**を考える必要

これからのまちづくりで大事なこと：都市の中心部を考える



これまで
拡大・成長期

これから
縮退・成熟期

常に旧来の都市空間を内包しながら
拡大の中で新しい都市デザインを実現

都市の生活や文化の基盤となってきた
中心部のあり方を考える必要

**都市の生活や文化の基盤となってきた中心部の変革では、そこから育まれてきた
アイデンティティ（らしさ）とは何かを意識的に議論するまちづくりが重要**

c.f.コンパクト+ネットワーク≒都市サービス機能の集約

(機能集約だけに特化した議論では) → **地域のアイデンティティの危機**

まちづくりを実現していくために大事なこと：オリジナルのヴィジョンをもつ



例) 「デザインノート」
 官民や事業単位ではなく地域単位のヴィジョンを描く
 ダイアグラムではなく空間イメージを伴う議論を



例) 「デザインノート」
 官民や事業単位ではなく地域単位のヴィジョンを描く
 ダイアグラムではなく空間イメージを伴う議論を



地域の価値を行政と地域で共有し、オリジナルのヴィジョンを議論し、個々の事業やまちづくりの活動を位置付ける